

# 概要集

## 第6回観光情報学会全国大会

in 加賀市

# 観光と地域再生

日時 平成21年5月28-30日

会場 山中温泉文化会館（聴講無料）

主催 NPO法人観光情報学会

かが・のと観光情報学研究会

共催 金沢星稜大学総合研究所

写真提供 KAGA旅・まちネット

後 援

石川県 加賀市 石川県日本中国友好協会 山中温泉観光協会

## 歓迎のことば

かが・のと観光情報学研究会

主査 大藪 多可志

観光情報学会全国大会も第6回の開催の運びとなりました。北は北海道から南は沖縄まで13研究会から構成されている当学会が初めて観光立県である石川県で開催いたします。石川県には歴史資源のみならず多くの温泉地があります。大会開催地である加賀市には片山津、山代、山中と特徴ある3温泉があり日本有数の温泉地です。特に、山中温泉はバラエティに富んだ観光地です。近隣にも粟津温泉（小松市）と芦原温泉（あわら市）があり、加賀5温泉と呼ばれております。日本において温泉は重要な観光資源であり、湯治など古来より多くの人々に利用され親しまれ独特の文化を築いてきました。しかしながら、温泉利用の形態が団体から個人客へと変遷し、これに整合できない温泉地の衰退は著しく大きな課題となっております。特に、ここ数年は未曾有の経済危機のなか真に付加価値のある“もてなし”と顧客ニーズに即した資源提供、さらに情報発信が必須です。観光産業に携わる全ての人の英知を結集・発揮するシステムが求められています。単に温泉に入浴するのみではなく、「泊」、「食」、「遊」、「知」などの多くの顧客ニーズに応える必要があります。

本大会でのテーマである「観光と地域再生」は、日本古来の地方の文化・歴史資源のみならず温泉、自然を活用した“地方再生”にターゲットをあて議論の環を広げ当学会から日本再生の糸口を発信しようとするものです。これにはIT(情報技術)の活用は必要不可欠な状況にあります。ご参加の皆様により、観光情報分野から地方再生のモデルが構築され、多くの地方の参考になる成果が生まれることを期待しております。

本大会は石川県のみならず地元加賀市、石川県日本中国友好協会、山中温泉観光協会など多くの機関のご支援を得て開催することが出来ました。ここに厚く御礼申し上げます。

## 第6回観光情報学会全国大会 in 加賀市 プログラム

### 【5月28日（木）】

- 16：00～18：30 ウェルカムパーティー  
山中温泉荒谷地区今立・大土町で山菜料理と民話

### 【5月29日（金）】

- 10：00～10：05 大会実行委員長挨拶  
10：05～10：40 観光情報学研究会活動報告（各3分）  
10：50～11：50 記念講演  
「山中は日本のもてなし文化の化身でありたい」と希って  
上口 昌徳（山中温泉観光協会会長・かよう亭社長）  
11：50～13：00（昼食休憩）  
13：00～13：35 開会式  
13：00～13：05 開会宣言  
13：05～13：10 開会挨拶（観光情報学会会長）  
13：10～13：20 来賓挨拶（石川県知事）  
13：20～13：25 来賓挨拶（加賀市長）  
13：25～13：30 来賓挨拶（石川県日本中国友好協会会長）  
13：30～13：35 来賓紹介  
13：35～14：35 パネルセッション  
テーマ 「観光と地域再生」  
パネリスト 三国 栄（石川県観光交流局長）  
下口 進（加賀市観光協会副会長）  
田向 公一（白鷺湯たわらや常務取締役）  
二枚田 昇（炭工房おおづち村代表）  
大内 東（北海商科大学）  
コーディネータ 大藪多可志（金沢星稜大学教授）  
14：45～15：45 基調講演  
「函館における観光振興」  
松原 仁（公立ほこだて未来大学教授）  
15：50～16：50 ポスターセッション（一般・高校の部）  
16：50～17：50 口頭発表（A-01～A-06）  
18：00～18：30 観光情報学会 意見交換会（NPO化の経緯と今後の方針について）  
19：00～21：00 懇親会（白鷺湯たわらや）

### 【5月30日（土）】

- 9：30～11：30 口頭発表（A-07～A-16）  
11：30～11：35 閉会式  
  
13：00～15：00 エクスカーション  
山中温泉散策と伝統工芸視察

## ポスターセッションプログラム(一般・高校の部)

5月29日(金) 15:50-16:50

大ホールにて各発表につき1分間のプレゼンテーション, その後ロビーにてポスター発表

### 【一般の部】

- |      |  |   |
|------|--|---|
| P-01 | 旭川大雪観光文化検定の動き -----  | 5 |
|      | 小川 博 (東海大学 旭川校舎)   |   |
| P-02 | 観光振興のためのゲーム開発の提案   |   |
|      | 竹内 飛鳥 (公立はこだて未来大学大学院), 松原 仁 (公立はこだて未来大学)                                     |   |
| P-03 | オープンソース CMS によるマルチリンガルコンテンツの効率的な生成   |   |
|      | 松村 康弘, 猿舘 新, 小幡 成将, 家元 真司, 今野 陽子, 伊藤 恵, 奥野 拓<br>(公立はこだて未来大学)                 |   |
| P-04 | オープンソース CMS による観光サイトの構築 — データの一元管理と再利用 -----                                 | 6 |
|      | 小幡 成将, 猿舘 新, 松村 康弘, 家元 真司, 今野 陽子, 伊藤 恵, 奥野 拓<br>(公立はこだて未来大学)                 |   |
| P-05 | まちの変遷を考慮した地域学習支援システム   |   |
|      | 工藤 彰 (岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科), 窪田 論, 市川 尚,<br>阿部 昭博 (岩手県立大学ソフトウェア情報学部)        |   |
| P-06 | 野外美術館における鑑賞支援システムの検討   |   |
|      | 佐藤 歩 (岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科), 市川 尚, 窪田 論,<br>阿部 昭博 (岩手県立大学ソフトウェア情報学部)        |   |
| P-07 | 歴史資料の情報資源化と観光分野における活用に関する提案 -----  | 7 |
|      | 堀井 洋, 林 正治, 堀井 美里 (北陸先端科学技術大学院大学), 沢田 史子 (金<br>沢星稜大学), 吉田 武稔 (北陸先端科学技術大学院大学) |   |
| P-08 | ネットニュースにおける話題分析アルゴリズムの開発 ~メディア状況に基づく風<br>評被害対策の実現に向けて~                       |   |
|      | 長尾 光悦, 須藤 一弘 (北海道情報大学), 大内 東 (北海商科大学)  |   |
| P-09 | blog によるコミュニティに着目した「やきもの」に関する Web サイトの構築                                     |   |
|      | 斎藤 一, 星 健太郎, 向田 茂, (北海道情報大学), 川田 尚紀 ((株)オハナ)                                 |   |
| P-10 | ブランド産品で観光振興を -----   | 8 |
|      | 石井 昭三 (一心堂)  |   |
| P-11 | ショッピングも観光の目玉に  |   |
|      | 木所 勝邦 (三光物産 (株))   |   |
| P-12 | 電線の地中化でやさしい町に  |   |
|      | 小林 義朗 (武蔵観研)   |   |
| P-13 | 観光客が安心な防災の町に -----   | 9 |
|      | 富田 忠 (武蔵観研)  |   |

### 【高校の部】

- |      |  |  |
|------|--|--|
| H-01 | 小松商業高校における観光教育   |  |
|      | 梶 紀子, 加藤 妙子, 川端 翼, 新宅 菜穂子, 森 彩乃, 弓立 恵子, 了舟 美<br>公, 井村 繁夫, 池田 英仁, 浅田 勝大, 森田 充哉 (小松商業高校) |  |
| H-02 | 高校における中国との交流づくり  |  |
|      | 白瀬 かれん, 酒井 紬衣, 竹川 晃代, 田畑 龍一郎, 河村 好光 (金沢商業高校)   |  |

## 口頭発表プログラム

---

5月29日(金)

セッション1(大ホール)

座長:堀井 洋(北陸先端科学技術大学院大学)

- 16:50-17:10 A-01  
着地型旅行商品開発支援システム JITABI  
佐藤 達雄, 北山 憲武 (北海道旅行業協同組合)
- 17:10-17:30 A-02  
R12 背骨プロジェクト  
大内 東 (北海商科大学)
- 17:30-17:50 A-03  
関係性モデルによる持続可能な観光の評価の試み ----- 10  
敷田 麻実 (北海道大学観光学高等研究センター)

セッション2(第一会議室)

座長:市川 尚(岩手県立大学)

- 16:50-17:10 A-04  
観光まちづくりにおける地域ブランディング  
内田 純一 (北海道大学)
- 17:10-17:30 A-05  
観光とバーチャルコミュニティに関する基礎的研究  
梅村 匡史 (札幌国際大学)
- 17:30-17:50 A-06  
アニメ聖地巡礼行動における巡礼者の情報環境に関する研究 ----- 11  
岡本 健 (北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻)

5月30日(土)

セッション3(大ホール)

座長:村上 嘉代子(金沢工業大学)

- 9:30-9:50 A-07  
国際観光地としての能登の可能性  
辻 建一 (星稜女子短期大学)
- 9:50-10:10 A-08  
小松空港における英文パンフレットの計量言語学的解析  
伴 浩美 (東京未来大学), 南保 英孝 (金沢大学), 大藪 多可志 (金沢星稜大学)
- 10:10-10:30 A-09  
外国人観光客への公衆 Wi-Fi を活用した情報提供の検討 ----- 12  
細野 昌和, 西川 博史, 佐藤 馨一 (北海商科大学)
- 10:30-10:50 A-10  
宗教観光について  
桑原 政則 (東京国際大学)

10:50-11:10 A-11  
ツアーリストを考慮したツアーガイドの最適配置  
村上 嘉代子 (金沢工業大学), Seren Oz Mehmet Tasan (Dokuz Eylul University), 玄 光男 (早稲田大学大学院), 大藪 多可志 (金沢星稜大学)

#### セッション4(第一会議室)

座長:工藤 泰子(京都光華女子大学)

9:30-9:50 A-12  
アンケートによる温泉の五感イメージ抽出とその応用 ----- 13  
田中 慎二 (金沢星稜大学経済学部), 柴田 慎一, 大藪 多可志 (金沢星稜大学大学院), 大石 恵, 下村 有子 (金城大学)

9:50-10:10 A-13  
炭焼体験による加賀市大土町地域活性化策  
康 宝升, 柴田 慎一, 王 迎欣, 大藪 多可志 (金沢星稜大学大学院経営戦略研究科), 二枚田 昇 (炭工房おおづち村)

10:10-10:30 A-14  
Web を用いた体験イベント発信による限界集落再生  
王 迎欣 (金沢星稜大学大学院), 福島 良一 (金沢星稜大学経済学部), 大藪 多可志 (金沢星稜大学大学院)

10:30-10:50 A-15  
ICTによる歴史資料の利活用 –歴史研究支援ソフトウェア KuKuRI ----- 14  
(菊理)の開発–  
米田 稔, 山本晃平 (株式会社COM-ONE), 堀井 洋, 林 正治, 堀井 美里, 吉田 武稔 (北陸先端科学技術大学院大学)

10:50-11:10 A-16  
観光にみる女性イメージの変遷  
工藤 泰子 (京都光華女子大学)

P-01 旭川大雪観光文化検定の動き  
小川 博(東海大学 旭川校舎)

はじめに

近年、地域固有の歴史・文化を学び、その地域を訪れる人へのおもてなしに役立てることを目的とした、ご当地検定を耳にする。ここ旭川でも平成 20 年度より「旭川大雪観光文化検定」を実施している。この実施関係者としてテキスト作成および試験実施までの流れと問題点を報告する。

**実施目的** 上記に上げた目的で各地において実施されている文化検定に類似したものは20前後を数える。中には歴史・文化の伝承を目的とするケースも少なくない。「旭川大雪観光文化検定試験」では、旭川地域に関する歴史、文化、産業、暮らしなど他分野にわたる知識を正しく理解し、旭川地域の魅力を発信すると共に次の世代に語り継いでいくことを目的に実施する。特徴としては近隣市町村を含む広域地域を考慮した点と考えます。

**実施組織と開催数**

旭川大雪観光文化検定運営協議会(役員5名, 委員6名, 監査2名)・・・2回

旭川大雪観光文化検定公式テキスト編集委員会(10名)・・・18回

旭川大雪観光文化検定作問委員会・・・4回

**運営資金** 資金は地域政策総合補助金(北海道各支庁事業)と負担金(旭川市・旭川商工会議所・旭川観光協会・大観連)、テキスト売上金、受講料、受験料からなり、総額は約850万円となる。なお、「地域政策総合補助金」は地域自らが選択して決定する地域完結型活性化策の促進を図るため、地域課題の解決や地域活性化を目的として取り組まれる各種事業に対し交付されるものです。

試験実施前の旭川大雪観光文化検定セミナー

第1回 2月26日(平日) 夕方3時間, 第2回 3月15日(日曜) 午後3時間

試験の実施

申込期間 2009年1月19日～3月6日 実施日 3月20日(祝日)

合格発表 3月25日

流れ

□テキスト作成

2008年6月13日 第1回旭川大雪観光文化検定公式テキスト編集委員会

2009年1月末 テキスト編集作業終了

2月上旬 テキスト販売開始

〈主な検討内容〉

過去のデータ検証, 個人名の読み, 文章表現の統一, 写真等の著作権等の問題

〈内容〉 北の大地旭川, 歴史概観, 各論研究, 現在の姿, 近隣町, 話題, 観光イベント, おもてなし

□作問

2008年10月作問依頼 2009年3月上旬 最終調整

〈主な検討内容〉

テキスト内限定の出題, 出題文の文字数, 穴埋めの表記方法と解答郡の表記



P-02 観光振興のためのゲーム開発の提案

竹内 飛鳥(公立はこだて未来大学大学院), 松原 仁(公立はこだて未来大学)

函館は日本有数の観光都市であるが、年々観光客が減少している現状である。また観光客層は約 60% が 50 歳以上であり、20 代以下は約 20% しかいない。新しい観光客誘致のため、20 代以下へのアプローチが必要と考える。この年代は情報通信機器に次いで、個人で楽しむコンテンツに対して興味関心を抱いている傾向があり、それに沿ったコンテンツを提供していくことが重要である。さらにデジタルゲームは近年様々な分野において使用することが注目されている。そこで函館の PR としてデジタルゲームの使用を提案する。



現大学生が興味関心がある製品・サービスランキング[2008年度乗用車市場動向調査]

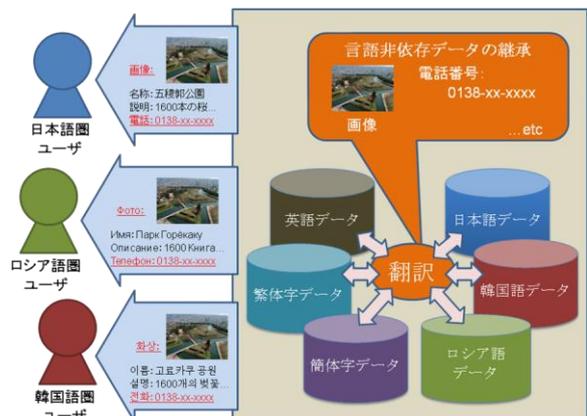
1	パソコン	62.1	6	音楽	43.7
2	ファッション	53.9	7	書籍	42.9
3	携帯音楽プレーヤー	50.6	8	アニメ・漫画	42
4	通信機器	49.9	9	ゲーム	38.4
5	国内旅行	44	10	外食・食べ歩き	37.6 (%)

20代に対する観光地PRとしてのゲーム

P-03 オープンソース CMS によるマルチリンガルコンテンツの効率的な生成

松村 康弘, 猿舘 新, 小幡 成将, 家元 真司, 今野 陽子, 伊藤 恵, 奥野 拓(公立はこだて未来大学)

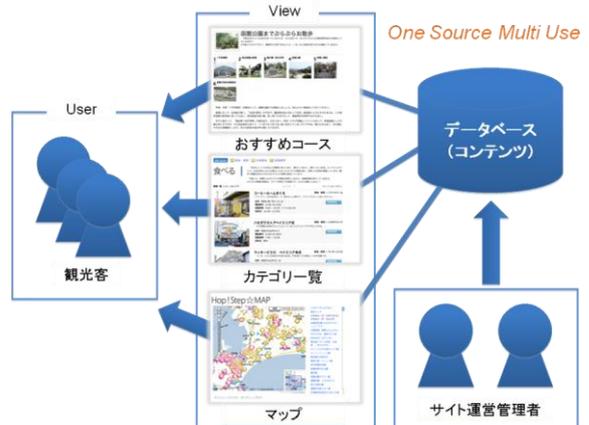
海外からの観光客に向けた充実した情報を提供する観光情報サイトへのニーズが高まっている。しかし、膨大な観光情報データとの整合性を保ちつつ、多言語対応コンテンツを提供するためには大変な手間とコストを要する。発表者らは、「函館観光情報サイト」はこぶら」を構築した。本サイトはオープンソース CMS のデータ一元管理のシステムを活用して、効率的な多言語対応コンテンツ生成の仕組みを実装している。多言語対応コンテンツ生成の際、翻訳元の言語非依存データ部を継承することで運用にかかる手間を軽減している。本システムでは6カ国語に対応した観光情報の発信を実現しており、このシステムの概要について解説する。



P-04 オープンソース CMS による観光サイトの構築 — データの一元管理と再利用

小幡 成将, 猿舘 新, 松村 康弘, 家元 真司, 今野 陽子, 伊藤 恵, 奥野 拓(公立はこだて未来大学)

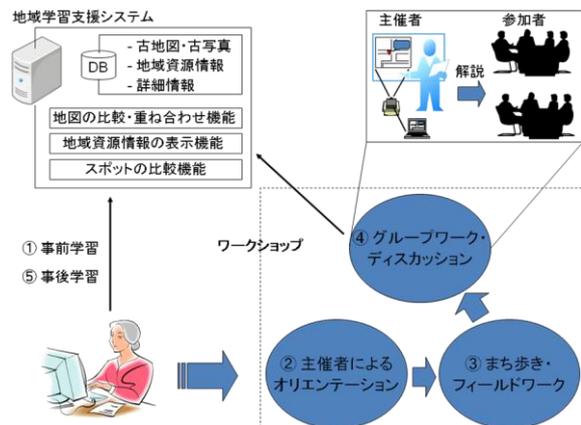
観光ポータルサイトにおいて、観光客に情報を発信する際は、魅力的な旬の情報を提供することが重要である。しかしながら、膨大な観光データの整合性とデザインの一貫性を保ち、管理・運営することは容易ではない。発表者らは、函館市委託のもと、オープンソース CMS を用いて「函館観光情報サイト“はこぶら”」を構築した。このサイトでは、一元管理されたデータからコンテンツを再利用して生成することにより、情報の整合性と表示の一貫性を維持し、運営側のメンテナンスの効率化を図っている。その結果、観光客に整理された最新情報を提供することを実現している。



P-05 まちの変遷を考慮した地域学習支援システム

工藤 彰(岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科), 窪田 諭, 市川 尚, 阿部 昭博(岩手県立大学ソフトウェア情報学部)

近年、住んでいる地域を見つめ直す取り組みとして地域学習が行われている。この取り組みにおいて、まちの変遷を知ることが重要であり、そのためには昔の様子を記した古地図や古写真の利用が有効であると考える。本研究では、現在の地図・写真と古地図・古写真を活用し、学校教育のみならず地域のワークショップなどでも利用可能な地域学習支援システムを開発した。地域に関する様々な取り組みを行っている市民団体による評価では、操作性に課題が残ったもののシステムの有用性が示唆された。本システムの運用として、岩手県盛岡市ではまちづくりの一環として城下町フィールドミュージアム構想があり、その拠点施設での利用が期待される。

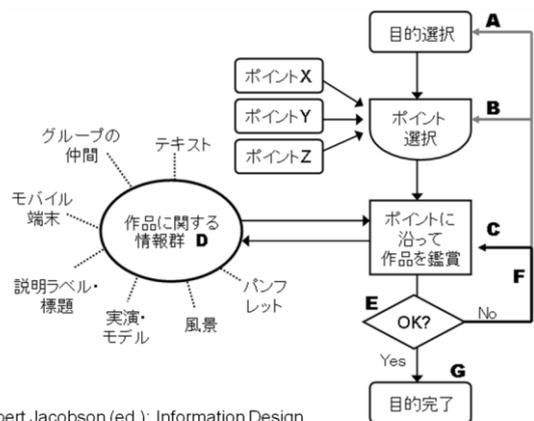


P-06 野外美術館における鑑賞支援システムの検討

佐藤 歩(岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科), 市川 尚, 窪田 諭, 阿部 昭博(岩手県立大学ソフトウェア情報学部)

近年、生涯学習の場として美術館が利用されるようになってきている。美術館には野外での展示を行う野外美術館があるが、野外美術館は美術鑑賞以外の目的で訪れる来館者もいるため、屋内展示と比べて来館者のニーズが多様化している。また、地理的理由により平地以外に作品を展示する美術館が多く、険しい散策路や移動距離などの物理的問題が鑑賞の妨げとなっている。

これらの課題に対してモバイル端末での鑑賞支援に着目し、主に岩手県の石神の丘美術館を対象に調査研究を行った。本稿ではその調査結果と、Screvenの行動連鎖モデルに基づいた野外美術館におけるモバイル端末での鑑賞支援システムの在り方について述べる。



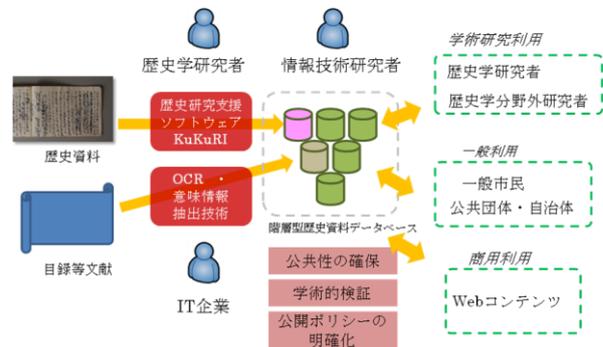
\*Robert Jacobson (ed.): Information Design, The MIT Press, p.172 (2000) (一部改変)

P-07 歴史資料の情報資源化と観光分野における活用に関する提案

堀井 洋, 林 正治, 堀井 美里(北陸先端科学技術大学院大学), 沢田 史子(金沢星稜大学), 吉田 武稔(北陸先端科学技術大学院大学)

近年、海外からのインバウンド観光推進や歴史文化遺産の再認識など、歴史資料および歴史学研究分野に対して、単なる学術資料としてのみではなく、地域の重要な情報資源としての役割・機能が期待されつつある。

本研究では、北陸石川地域における歴史資料データベース化の構想とそれを基盤とした地域振興を中心に、歴史資料の情報資源化と観光分野における活用について論じる。

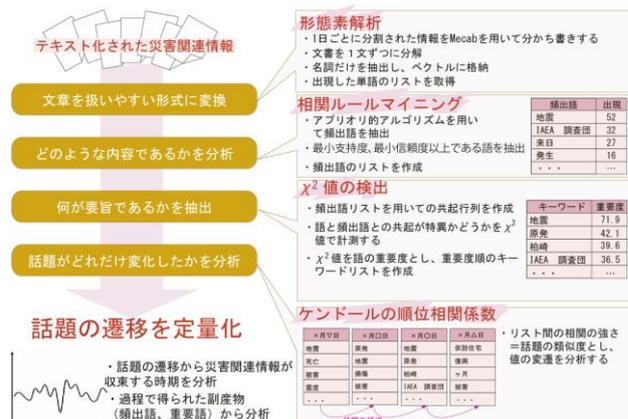


歴史資料を対象にした情報資源化の概要

P-08 ネットニュースにおける話題分析アルゴリズムの開発 ~メディア状況に基づく風評被害対策の実現に向けて~

長尾 光悦, 須藤 一弘(北海道情報大学), 大内 東(北海商科大学)

風評被害の発生、拡大には、メディアから伝達される情報が深く関係する。このため、風評被害対策を実施する際には、メディアからの情報提供状況を意識して実施しなければ、十分な効果を期待できない。本研究では、メディア状況に基づく効果的な風評被害対策を実現するために、ネットニュースにおける話題分析アルゴリズムを提案する。ここでは、テキストマイニングによりネットニュースにおける話題の遷移を定量的に把握可能とする。更に、平成 19 年 7 月の新潟県中越沖地震発生当時のネットニュース記事に提案アルゴリズムを適用することにより評価を行う。



P-09 blog によるコミュニティに着目した「やきもの」に関する Web サイトの構築

斎藤 一, 星 健太郎, 向田 茂, (北海道情報大学), 川田 尚紀((株)オハナ)

北海道江別市では、毎年約 10 万人が来場する「えべつやきもの市」を開催する等、「やきものまち」として政策を進めている。しかし、江別市の陶芸作家からは「江別市のやきものを盛り上げたい」という声がある一方で、江別市＝「やきもの」の認知度は低いのが現状である。

本研究では、地域の持続可能な観光資源発掘モデルの構築を目指し、江別市の「やきもの」に関する blog によるコミュニティに着目した Web サイトの開発を行う。

背景・目的

- 「村ぶる」の成功例を参考
  - 北山村の自治体が運営する地域密着型blogポータルサイト
  - いままでは、活用できていなかった、高齢層の情報収集に成功
  - 口コミの情報をblogで流すことによる地域コミュニティの活性化
- ITを活用できていない、えべつ・やきものに適用
  - 江別のやきものを活用した地域密着型blogサイトの構築
- blogによる作家、やきもの愛好家によるコミュニティの活性化

開発

- データベースを利用したWebアプリケーション構築のフレームワーク(オープンソース)
  - マイページ・blog機能
  - 画像投稿機能
  - サイト管理機能

Ruby 1.8.6  
Ruby on Rails 2.1.0



P-10 ブランド産品で観光振興を  
石井 昭三(一心堂)

埼玉県には、かくれた名産品もあるはずだが、広報宣伝力が足りないせいか、一般に浸透していないようです。武蔵観研では、独自性、愛着度、希少性、推奨度の観点からブランド産品を 発掘紹介していこうと考えています。

「独自性」とは、他とは違う独自性を有することです。  
「愛着度」は高い愛着度があることです。  
「希少性」とは値段が高くても購入したいことです。  
「推奨度」は、他人に薦めたいことです。

ブランド産品に認定されると、売り上げも伸び、地域の活性化にもつながります。



地域ブランド産品の例:  
「骨酒バック」:小江戸川越ブランド産品認定品。彩の国優良ブランド品認定品

P-11 ショッピングも観光の目玉に  
木所 勝邦(三光物産(株))

・私は、商店街も、観光の柱にすることを提唱します。川越のクリアモール商店街は関東でも屈指の集客力もっています。

近年の中心市街地空洞化を跳ね返して珍しく賑っている商店街です。

・また、蔵づくりの街並み、菓子屋横町、大正浪漫夢通りは、観光コースであると同時に、ショッピングでにぎあう街でもあります。

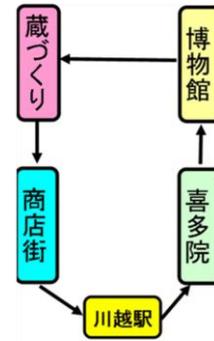
・川越には、30 以上の商店街、1500 以上の店舗があります。

商店街も観光資源です。

知恵を出し合えば、「川越商店街観光」も川越観光の大きな柱になります。

・外国人観光客の訪日目的の1番は、ショッピングです。

2 番が歴史的施設、3 番が温泉でのリラックスです。



商店街をいれた川越の観光コース

P-12 電線の地中化でやさしい町に  
小林 義朗(武蔵観研)

川越市一番街の電線地中化は、蔵造りが立ち並び道路が狭く、交通量の多い環境の中で、平成3年1月から平成4年9月にかけて、県道約 430mと、周辺の「時の鐘通り」や「菓子屋横丁通り」等、約 350m を実施しました。

電線地中化は、1986 年旧建設省の「電線地中化計画」で始まり、平成10年までに約3400kmの道路から電柱がなくなりました。平成11年3月には、「新電線地中化計画」を策定し、従来の2倍以上のスピードで整備が進んでいます。

地中化の長所は、都市景観の向上、安全供給及び防災上の安全対策が上げられます。短所は、コストが高く、1km当たり数億円ともいえる費用負担にあります。

「景観向上」の観点から、川越市の観光客は、地中化前が200~250万人が、最近では、600万人を超え、蔵造りの町並みが蘇った一因とも考えられています。

地中化工事の概要  
 国の監督官庁…国土交通省が方針や計画を立てる  
 電線の管理者の監督官庁  
 ・電話線 電話会社→郵政省(現・総務省)  
 ・電気線 電力会社→電力会社(現・通産産業省)  
 ・電柱 電話と電力会社(郵政・通産産業省)  
 道路管理者…県道部分→埼玉県川越県土整備事務所  
 市道部分→川越市  
 電線管理者…NTT東日本埼玉支店  
 東京電力(株)埼玉支店川越支社  
 ガス…武州ガス(株)  
 水道・下水…川越市水道部、下水道部  
 地元…商店会、商工会議所、自治会、住民  
 工事場所…県道 川越・坂戸・毛呂山線  
 県道部:中央通り長さ約430m 道路9~11m  
 市道部:菓子屋横丁通り 養寿院門前通り  
 長音院門前通り 計約350m  
 実施時期…平成3年1月~平成4年9月

P-13 観光客が安心な防災の町に

富田 忠(武蔵観研)

1 災害時要援護者

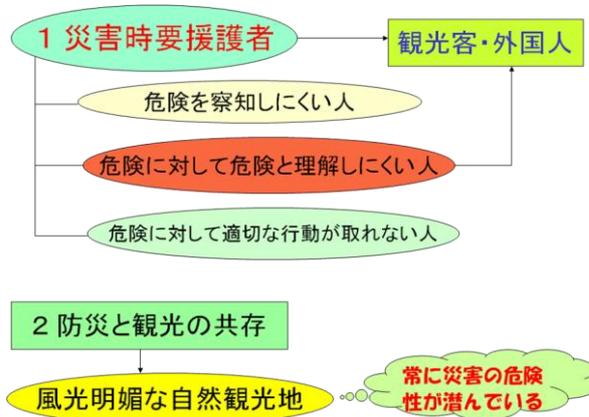
①危険を察知しにくい人 ②危険に対して危険と理解しにくい人 ③危険に対して適切な行動が取れない人達を指します。言葉が分かりにくい外国人や地理に不案内な旅行者等は、②に該当します。

今後、地域振興や観光開発に伴い、観光客が増加し災害時に支援を必要とする人達が拡大していきます。

このため、観光振興によるまちづくりを進めて行く場合、災害時要援護者対策を、積極的に進めていくことが重要になります。

2 防災と観光の共存

風光明媚な自然観光地の裏には、災害の危険性が潜んでいます。自然を観光資源とする地域は、観光客の安全対策上、広域的な防災計画を作成する必要があります。



A-01 着地型旅行商品開発支援システム JITABI

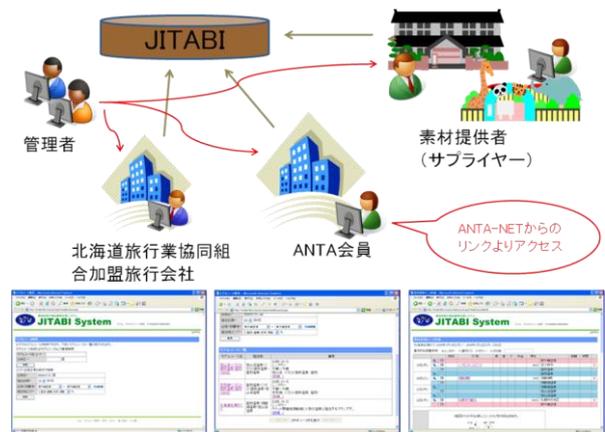
佐藤 達雄, 北山 憲武(北海道旅行業協同組合)

観光客の旅行形態は、団体旅行から個人旅行へ、有名観光地からニッチ観光地へと志向が変化している。

このような旅行者ニーズの変化は多様な旅行商品の品揃を必要とし、旅行商品を販売する側の旅行代理店はこのようなニーズに対応する必要に迫られている。

北海道旅行業協同組合は、産学官協働の成果として、着地型旅行支援システム JITABIを開発し、6月のリリースに向けて準備を行っている。

本講演では JITABI システムについてそのコンセプトと概要を紹介し、旅行代理店業における IT 導入の方向について議論する。



A-02 R12 背骨プロジェクト

大内 東(北海商科大学)

背景

国道12号線 札幌と旭川を結ぶ国道12号線(R12) 石狩支庁、空知支庁、上川支庁の3つの支庁を縦断しているこれらの地域 (R12地域) のバックボーン(背骨)である

観光形態の変化 観光形態の変化

<団体旅行、発地型商品、売れ筋商品>  
=><個人旅行、着地型商品、ニッチ商品>

地域連携 R12沿線の地域において、一地域だけの資源では脆弱である。しかし、沿線地域が連携をとりゾーンとして情報を発信することにより、地域の経済を上向かせることが可能と思われる

・国道12号線を背骨として、これに関与する地域が一つとなり、「ひと・もの・かね」の活用によって地域全体の経済発展を目指すプロジェクトである

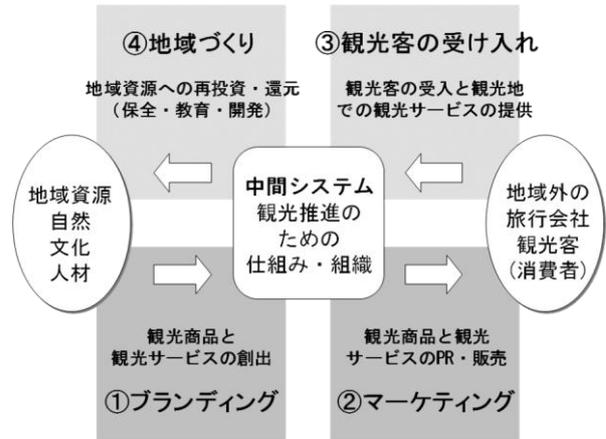
R12背骨プロジェクトの実施計画

- 第1ステップ: R12地域情報発信のためのポータルサイトの構築 (2年間): JITABIシステムと連携
- 第2ステップ: R12地域から大消費地へ物流 (2年間)
- 第3ステップ: R12地域へ人を呼ぶ (2年間)



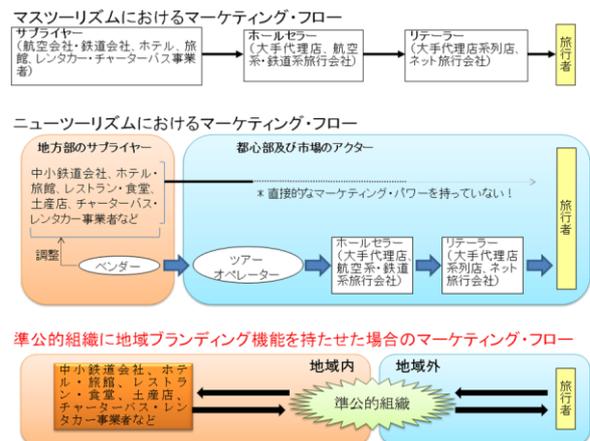
A-03 関係性モデルによる持続可能な観光の評価の試み  
 敷田 麻実(北海道大学観光学高等研究センター)

観光まちづくりが各地で進められ、「地域発の観光」、いわゆる着地型観光を自律的に実現する試みが行われている。一方、持続可能な観光の実現に向けた議論も高まっており、地域で持続可能な観光を自律的に実現することが課題となっている。しかし、「自律的で持続可能な観光」の実現のための具体的な枠組みや評価の手法がなく、具体的な政策や施策とはなりにくかった。その原因は、地域発観光の推進プロセスに関する具体的な枠組みが存在しないからである。そこでこの発表では、自律的で持続可能な観光のモデルを提示したうえで、それをを用いて地域発の観光を評価する提案を行う。



A-04 観光まちづくりにおける地域ブランディング  
 内田 純一(北海道大学)

観光に関わる事業者のマーケティング活動の流れは、従来のマストツーリズムの時代から、ニューツーリズムと呼ばれる地域主導の「観光地域づくり」の時代に着実にシフトしている。しかし、こうした観光形態では、地域のさまざまな事業者がサプライヤーとして関わってくるため、全体調整が複雑になり、マーケティングのスキルも持たないという弱点がある。こうした状況を打破する手段としては、地域側から準公的組織(中間システム)を独立させ、市場と地域をリンクさせるという方法が考えられている。本発表では、この組織が地域ブランディング機能を持つことで、観光地域づくりを活性化させる可能性があることを事例によって説明する。



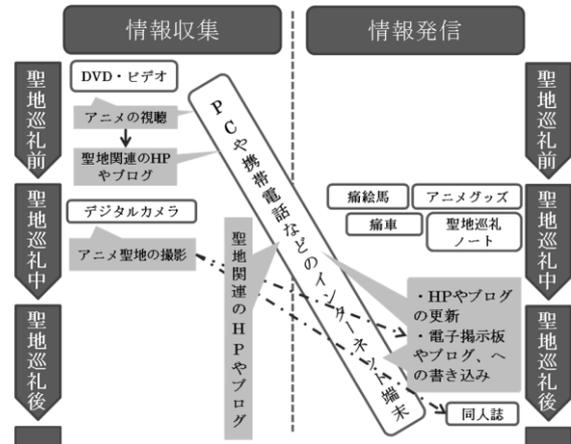
A-05 観光とバーチャルコミュニティに関する基礎的研究  
 梅村 匡史(札幌国際大学)

昨年度より SCOPE の委託研究を受け、多言語でのコミュニケーションが可能な、バーチャルコミュニティを、オープンソースを利用しネット上に構築した。この仮想空間を活用し、地元に着したアドホックな情報を交換し、潜在的なニセコファンを増加させリアルな交流へと誘導すること、交流人口の増加に伴い、地域の活性化と地域のアイデンティティの涵養を目的として実証実験を行った。本報告はそこから得られた知見と課題、今年度の研究課題について報告するものである。



A-06 アニメ聖地巡礼行動における巡礼者の情報環境に関する研究  
 岡本 健(北海道大学大学院 国際広報メディア・観光学院 観光創造専攻)

日本では、1990年代前半ごろからアニメを観光動機とした旅行行動であるアニメ聖地巡礼が行われ始め、近年ではアニメ聖地巡礼を契機として、地元住民と巡礼者が共同でまちづくりに取り組む事例も見られ始めた。これは、情報技術の発展が旅行者行動に影響を与え、従来型の観光客とは異なる行動を誘発している事例と見ることができよう。本発表では、埼玉県鷲宮町の事例(アニメ「らき☆すた」の聖地とされている。)からアニメ聖地巡礼者の情報環境に着目し、前後を含めたアニメ聖地巡礼行動で、どのような情報収集および情報発信を行っているかを整理する。



A-07 国際観光地としての能登の可能性  
 辻 建一(星稜女子短期大学)

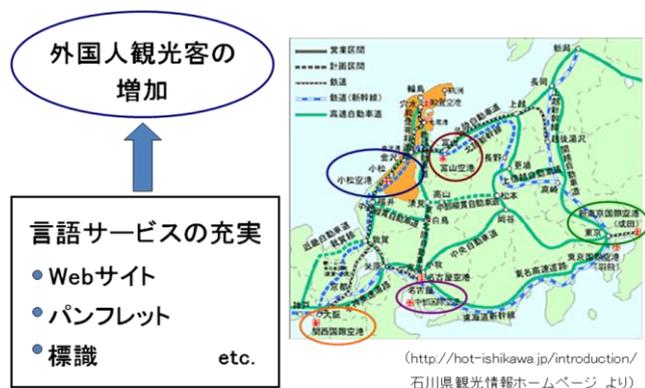
平成19年6月に能登で「第17回日米草の根交流サミット」が開催され、約250人のアメリカ人が参加した。能登が一丸となって取り組んだこの国際交流イベントは大成功であったが、能登の各地域がアメリカ人を迎えるにあたって、どういった企画を用意したのか？アメリカ人は、それらの企画にどう反応し、また能登での滞在をどう思ったのか？参加アメリカ人へのアンケート調査および各地域の担当者へのインタビューを分析して、能登の観光における課題をさぐる。

第17回日米草の根交流サミット



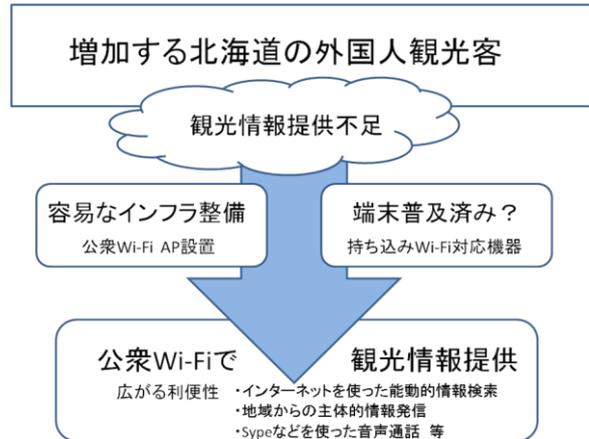
A-08 小松空港における英文パンフレットの計量言語学的解析  
 伴 浩美(東京未来大学), 南保 英孝(金沢大学), 大藪 多可志(金沢星稜大学)

北陸地方にある石川県は自然に恵まれ、また、伝統的な文化が多く残っており、毎年多くの観光客が訪れている。しかし、昨今、国内からの観光客の数は頭打ちであり、外国からの観光客を増やすことが、今後の県の観光事業の課題の一つとなっている。その課題を克服するためには、外国人観光客に「言語サービス」を提供し、外国人が観光しやすい県にしていく必要があると思われる。本研究では、言語サービスの一面を把握することを目的とし、小松空港に置かれている英文パンフレットにはどのような言語的特徴が見られるのか、隣県の富山空港と日本の主要な成田・関西・中部の3つの国際空港と比較しつつ、計量言語学的な解析を行った。



A-09 外国人観光客への公衆Wi-Fiを活用した情報提供の検討  
細野 昌和, 西川 博史, 佐藤 馨一(北海商科大学)

北海道では外国人観光客が増加しているが、観光情報の提供が十分でなく、不便を強いている。一方、日本の携帯サイトを利用した情報提供の試みがある。しかし、モバイル技術の活用には、基地局のインフラ整備と、端末普及の両条件が満たされなければならないが、一時滞在外国人の携帯端末入手は規制されており、普及の実現性に乏しい。そこで、アクセスポイント設置が容易で、海外で一般的な公衆Wi-Fiを使った情報提供の可能性を検討した。すなわち、海外観光客対象の調査により、北海道に持ち込まれているWi-Fi 対応機器の現状を把握し、観光情報提供の手段としての活用の課題と実現性を考察する。

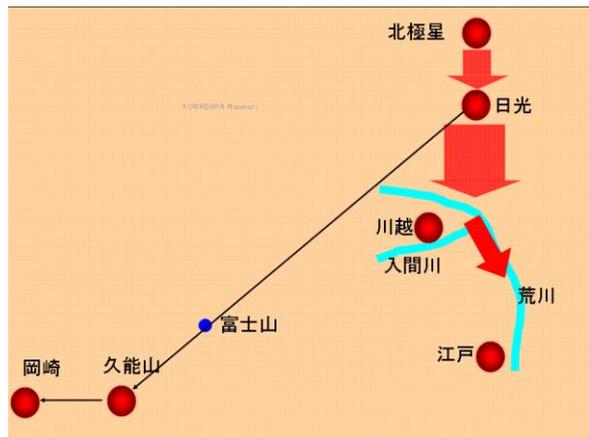


A-10 宗教観光について  
桑原 政則(東京国際大学)

観光に「寺社」の観点を取り入れると、思わぬ地域とのつながりが生まれます。川越を例にとると、江戸、日光、静岡、岡崎との関係が生まれます。また比叡山をとおして京都とも関係が出来ます。

この発表では、図解を多用し、「寺社観光のすすめ」について発表します。

- ・ 江戸城をまわる寺社とは?
- ・ 江戸は四神相応の地形
- ・ なぜ久能山?
- ・ なぜ上野に桜?
- ・ 東照宮にはなぜ虎の彫刻が多い?
- ・ 川越は江戸の母
- ・ 川越は、気のエネルギーの中継センター



A-11 ツーリストを考慮したツアーガイドの最適配置  
村上 嘉代子(金沢工業大学), Seren Ozmehtmet Tasan(Dokuz Eylul University), 玄 光男(早稲田大学大学院), 大藪 多可志(金沢星稜大学)

近年、日本の経済状況が悪化する中、観光産業の活性化による巻き返しが重要視されている。2003年より始まった海外からの観光客誘致政策である「ビジットジャパンキャンペーン」も順調で、事実、外国人観光客の数は年々増えている。しかしながら、この増加を保つためにも、また、より多くの外国人観光客を誘致するためにも更なる策を検討する余地がある。そのひとつが観光客のための環境整備である。とりわけ言語環境に関しては日本は改善の必要がある。日本の歴史や文化に日本を訪れたいと思っている外国人観光客には、「言語の壁」を懸念する声が多い。

そのため、ツアーを提供する旅行会社は外国人観光客の言語の要望に対してツアーガイドを配置することを考慮すべきである。この外国人観光客のツアー内での言語の要望、それに応じた言語スキルを持ったツアーガイドの配置を遺伝的アルゴリズムを用いて最適配置を行うことを提案する。

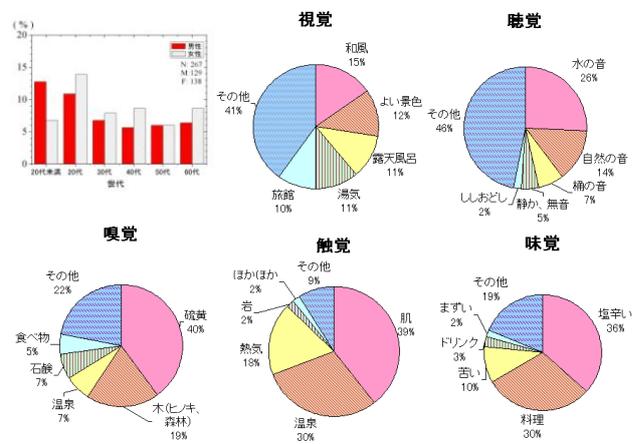
□ ツアーガイドの最適配置問題(Tour Guide Allocation Problems-tgAP)



A-12 アンケートによる温泉の五感イメージ抽出とその応用

田中 慎二(金沢星稜大学経済学部), 柴田 慎一, 大藪 多可志(金沢星稜大学大学院), 大石 恵, 下村 有子(金城大学)

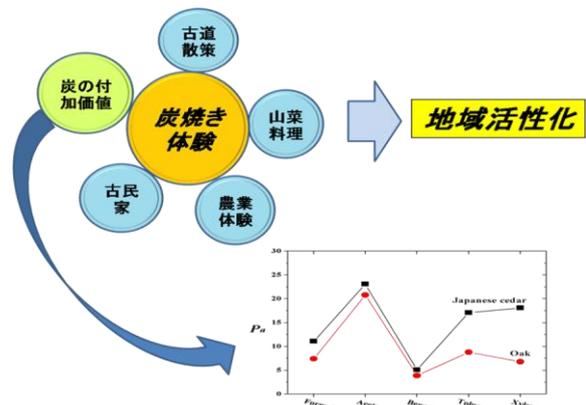
アンケートにより, 人の五感(視覚, 聴覚, 触覚, 味覚, 嗅覚)による温泉地イメージの導出を行なった。視覚の特徴として浴衣等の和風な姿や岩、山、海などの自然景観, 聴覚は川のせせらぎや温泉の湧出る音, 触覚は入浴後の肌の感触や熱気、温泉のぬるぬる感など, 味覚は飲泉による塩味, 嗅覚として硫黄や檜の匂いなどがあげられた。本研究の目的は, 五感による仮想温泉体験装置を開発し, 聴覚や視覚などの障害者が装置により温泉を体感し温泉地訪問を促進させることにある。また健常者が癒しやリラックス効果を体感できる装置の開発にある。HMD (Head Mount Display) を用いて視覚と聴覚による疑似体験が可能であるとの結論に至った。湯花や加湿器を用いて匂いや熱気も発生できる。



A-13 炭焼体験による加賀市大土町地域活性化策

康 宝升, 柴田 慎一, 王 迎欣, 大藪 多可志(金沢星稜大学大学院経営戦略研究科), 二枚田 昇 (炭工房おおづち村)

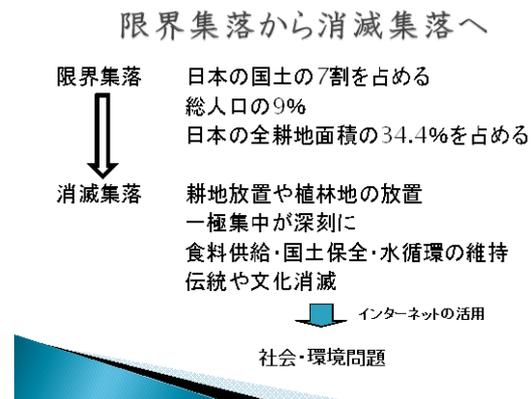
地域間格差の進行とともに**廃村**や**限界集落**などの問題が派生してきている。一方, 大中都市の肥大化, 食料自給率の低下などの問題も生じてきている。限界集落では, 適度な定住人口と交流人口を増加させる必要がある。その重要な役割を担うのが, 中山間地などで地元の人々と交流を介して**農林漁業体験**を行う**グリーンツーリズム**であると考えられる。本研究においては, 廃村一步手前の山中温泉大土町地区の活性化と持続的な発展を目標とし, 現有資源を融合して, 体験学習を介して団塊世代などの一部の定住と交流人口の増加策について検討した。結果として, 炭の付加価値を明確にして炭焼体験をコアとした山菜料理や近隣の山々の散策などによる交流人口を維持する提案し検証した。



A-14 Web を用いた体験イベント発信による限界集落再生

王 迎欣(金沢星稜大学大学院), 福島 良一(金沢星稜大学経済学部), 大藪 多可志(金沢星稜大学大学院)

一極集中化と共に地方においては限界集落が派生してきている。一方, 日本の食料自給率の著しい低下と共に多くの食料を海外に依存している。限界集落においては, 棚田や畑などが荒廃し, さらに自給率を低下させるというスパイラル状の連鎖が始まってきている。限界集落数を低下させることは必須である。日本において限界集落数は7,000を超えつつある。これらの集落には, 自然などの癒し効果やリラックス効果など様々な特徴がある。本研究においては, 農業体験や林業体験などグリーンツーリズムをインターネットを介して発信し団塊世代をはじめとした適宜な交流人口増加を図る。フィールドワークとして加賀市山中温泉大土地区を取り上げその事例について報告する。



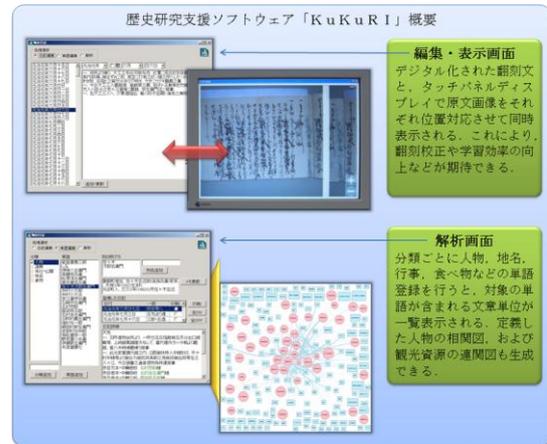
A-15 ICTによる歴史資料の利活用 —歴史研究支援ソフトウェア KuKuRI(菊理)の開発—

米田 稔, 山本晃平(株式会社COM-ONE), 堀井 洋, 林 正治, 堀井 美里, 吉田 武稔(北陸先端科学技術大学院大学)

ICTによる歴史資料の利活用を目的として開発したソフトウェア KukuRI(菊理)について紹介する。

これまで、史料探索や資料解読・分析作業などの大部分において、研究者個人が紙メディアを基本とした、所謂「手作業」によって行われている。本研究では、ICT利活用によって、前記「手作業」の効率化を図るだけでなく、タッチパネルやグラフィック表示機能などの活用により、既存作業では得られなかった情報の獲得を実現した。

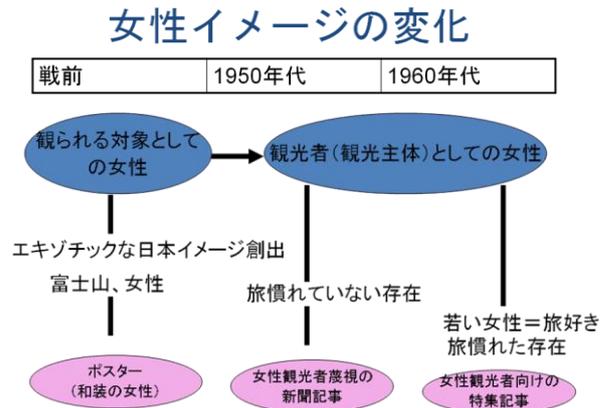
また、研究者同士が解析・獲得した情報や知識をネット上で公開・共有する事によって生じる相乗効果についても検証を進め、歴史文化観光における本研究の効果と課題を考察する。



A-16 観光にみる女性イメージの変遷

工藤 泰子(京都光華女子大学)

- ・ 今日では、多くの女性が観光の楽しみを享受している。周知のように、「アンノン族」の出現、国鉄のディスカバー・ジャパン・キャンペーンなどの影響により、1970年代、女性観光者が急増したといわれる(白幡1996他)。しかしながら、今日、ジェンダーの視点からの観光研究には、「アンノン族」が出現する1970年代に至るまで、女性観光者の実態を分析したものがほとんどない。
- ・ 本発表では、観光史研究の立場から、戦前から1960年代までにおいて、女性が観られる側から観る側(観光者)へと変容する様子を明らかにする。



## 第6回観光情報学会全国大会実行委員会

委員長	大藪 多可志	金沢星稜大学
幹事	沢田 史子	金沢星稜大学
庶務	新保 達也	(同)ピュリフォリア
委員	北村 修	石川県観光交流局観光推進課
	浅田 隆	石川県観光交流局観光推進課
	大田 俊介	加賀市観光商工課
	井上 慎也	山中温泉観光協会
	田中 孝範	全国旅行業協会石川県支部
	田向 公一	白鷺湯たわらや
	吉本 龍平	お花見久兵衛
	竹内 秀次郎	かよう亭
	田中 誠	河鹿荘ロイヤルホテル
	須谷 嘉貴	すゞや今日楼
	二枚田 昇	炭工房おおづち村
	藤重 嘉余子	(株)マーフィシステムズ
	堀井 洋	北陸先端科学技術大学院大学
	村上 嘉代子	金沢工業大学
	辻 建一	星稜女子短期大学
	竹川 晃代	金沢商業高校
	井村 繁夫	小松商業高校
	田畑 龍一郎	金沢商業高校

---

特定非営利活動法人 観光情報学会事務局

〒060-0814 札幌市北区北14条西9丁目

北海道大学大学院情報科学研究科複合情報学専攻

複雑系工学講座調和系工学研究室内

TEL : 080-3296-1873 FAX : 011-706-7834

email : [sti-office@harmo126.complex.eng.hokudai.ac.jp](mailto:sti-office@harmo126.complex.eng.hokudai.ac.jp)

URL : <http://harmo126.complex.eng.hokudai.ac.jp/>

---